

(未定稿)

伊達市と南相馬市の線量の高い地域についての議論 (メモ)

1. 日時： 平成 23 年 6 月 6 日 (月) 10:35-
2. 場所： 枝野官房長官室
3. 出席者： 枝野官房長官、福山官房副長官、伊藤危機管理監、菅原局長、西本技総審、森口文部科学審議官 他
4. 概要： 西本技総審から資料に基づき説明。

(福山副長官)

伊達市の線量が高い地域は高位安定といった感じ。南相馬市の線量が高い地域については住み続けて良いというレベルではないと思われる。

(枝野長官)

南相馬は住居がまばらなので、個別に説明した上で避難してもらうのが良いのでは。

(伊藤危機管理監)

年間 20mSv になる線量はいくらか。

(文科省)

3. 2mSv。

(福山副長官)

南相馬 (の測定場所) はほとんどアウトということか。

(枝野長官)

住むところだけどこかに移ってもらって仕事は続けてもらい、(線量が下がる) 数ヶ月後に戻ってもらうか。

(伊藤危機管理監)

土壌は測っているか。

(文科省)

測っていない。Cs (セシウム) なので下がらない。一方、ウエザリングがある。

(枝野長官)

それを期待しているのだが。

(文科省)

雨が降ると数値は上昇してその後下がる。

(福山副長官)

今までのスタンスだが、無理矢理計画的避難区域にすることが必要ではないと思うが、当時は面でないので経過観察とした。低減率が見えない中では、点で本人の希望を聞くか、行政から言うかはあるが、避難してほしいというメッセージを出す必要があるのでは。何で居て良いかと聞かれて答えようがない。

伊達の場合は小学校がある。

(森口文科審)

伊達の小国小学校は表土を削った。

(福山副長官)

一般的な生活区域の線量が高いと子供にとって厳しい。

(伊藤危機管理監)

ただ、(線量分布が) まだら (になっている地域) をどう指定するか。

(菅原局長)

区域指定はやりすぎでは。

(枝野官房長官)

そうだなあ。そこだけ除染できないか。屋根や雨樋だけでも除染すると効果があるという話がある。

(伊藤危機管理監)

やってみないとわからないが、やれると良い。

(福山副長官)

Cs (セシウム) なら低減率は見込めない。

(森口文科審)

(木に積もった Cs (セシウム) は) 雨によって木から落ちてくる。

(伊藤危機管理監)

落ちると線量は高まり、それが更に雨で流されると線量は下がるので、梅雨が明けた頃になれば線量は下がっているだろう。

(菅原局長)

面というより点や線をどうするか。また、本当は、気になるのは解除。少し上がって下がるような場合をどう考えるか。飯舘や川俣についても、どのようになったら帰れるのかまだ言っていない。

(福山副長官)

南相馬の地蔵木の東の地区の人から、地蔵木は大丈夫かと聞かれた。

(菅原局長)

川俣の南西はヨウ素が下がって線量は低くなっているが、解除をどうやるか。

(福山副長官)

さらに、南相馬の20km圏にある工場については、入っても良いという方向で検討を進めてもらっており、こちら(伊達と南相馬)は出るようにという話で、混乱する。

(枝野官房長官)

20mSv ぎりぎりについては動くなら補償。残っても健康被害はないと思うが。

(菅原局長)

小学校のことが心配で移転した郡山の人には、補償は出ないと思われる。

(枝野官房長官)

対象になるだろう。裁判になったら負ける。福島県内では中通りまで（は補償の対象になるだろう）。

今後、ホットスポットへの対応は、一軒単位で、（住んでいる人に線量の）地図を見せて進めるということだ。

(福山副長官)

19mSv の人が出たいというのに対して駄目とは言えない。補償がはっきりしないので決まるまで出ないというのは、国としてはつらい。

(枝野長官)

自治体と相談して一軒一軒声をかける。そういう線で良いか。自治体とやる必要がある。

(菅原局長)

南相馬は（軒数が多くないので）そういう線だろう。伊達は少し広いので集落単位か。

(枝野長官、福山副長官)

出て行ってもらって良い、強制はしない、安全サイドに立って。

(伊藤危機管理監)

自主避難ということか。

(枝野長官)

計画的避難区域の外。

(菅原局長)

区域と言うより概念的なもの。

(伊藤危機管理監)

区域の避難ではなく、個別の避難。

(福山副長官)

南相馬はもう一回数字が出る（測定する）。（注：6月6日も測定を実施。）

(西本技総審)

個別に聞いてみて対応するのが良い。

(伊藤危機管理監)

南相馬市の場合、これくらいの軒数であれば一戸一戸に説明できるのでは。

(枝野官房長官)

実際は個別だろう。政府としては、安全の観点では20mSv 前後なので大丈夫だが、安心の観点で情報提供をして避難を希望する方には避難していただく、というラインでどうか。

(福山副長官)

伊達の小学校は開けておいて良いのだろうか。

(枝野長官)

子供の避難は強く促す。学校は除染して、学校の周りが低ければ良いし、周りが高ければ避難を促す。20mSvの境目は柔軟に対応する。

以上

6月3日発表
積算線量推計値(～H24.3.11)

測定場所	測定日	$\mu\text{Sv/h}$	
d2 伊達市靈山町下小国高屋敷	4月27日	2.8	
	5月5日	3.5	
	5月10日	3.5	
	5月17日	3.3	→ 19.8 mSv
	5月26日	3.3	
	6月5日	2.82	
d3 伊達市靈山町上小国末坂	4月27日	2.2	
	5月5日	3.3	
	5月10日	3.3	
	5月17日	3.3	→ 18.9 mSv
	5月26日	3.1	
	6月5日	2.77	
d4 伊達市靈山町上小国茶畑	4月27日	3.1	
	5月5日	3.7	
	5月10日	4.3	
	5月17日	3.4	→ 20.8 mSv
	5月26日	4.0	
	6月5日	3.22	
d5 伊達市靈山町石田	4月27日	2.7	
	5月5日	3.4	
	5月10日	3.5	
	5月17日	3.4	→ 20.1 mSv
	6月5日	2.90	
	ms1 南相馬市原町区大原	4月26日	3.5
5月3日		4.3	
5月11日		4.7	
5月18日		4.0	→ 23.8 mSv
5月24日		3.3	
6月5日		2.69	

計画的避難区域に指定されていない南相馬市原町区、伊達市霊山町において
年間積算線量が新たに20mSvを超えた理由について

- 新たに測定を追加した地点の事故発生後1年間（来年3月11日）の積算線量の推定においては、最新の測定値に基づき推定した線量率が残りの期間（今回の発表であれば約9ヶ月間）継続するという仮定を置いて推定している。
- 今回（6月3日公表予定）の放射線量等分布マップ作成で用いた最新の測定値に基づく線量率の推定値は、前回の放射線等分布マップ（5月16日公表）で用いた線量率の推定値より上昇しており、積算線量が増加した原因となっている。
- なお、日々の変動要因の影響を減らすため、今回から最新の測定値に基づく線量率の推定値は、5月23日から5月25日までの推定値の平均値を利用している。

○南相馬市

地点番号	地点のおおよその住所	最新の測定値に基づく線量率の推定値 (mSv/h)		来年3月11日までの積算線量 (mSv)	
		5月11日時点（前回締日）の推定値*1	5月25日時点（今回締日）の推定値*2	5月11日時点の推定値	5月25日時点の推定値
ms1	南相馬市原町区大原	0.0032	0.0041	19.6	23.8

※1 4月26日の測定値に基づく推定値

※2 5月18日の測定値に基づく推定値

○伊達市霊山町

地点番号	地点のおおよその住所	最新の測定値に基づく線量率の推定値 (mSv/h)		来年3月11日までの積算線量 (mSv)	
		5月11日時点（前回締日）の推定値*3	5月25日時点（今回締日）の推定値*4	5月11日時点の推定値	5月25日時点の推定値
d2	伊達市霊山町下小国	0.0024	0.0035	14.6	19.7
d3	伊達市霊山町上小国	0.0019	0.0035	11.5	18.8
d4	伊達市霊山町上小国	0.0027	0.0036	16.2	20.6
d5	伊達市霊山町石田	0.0023	0.0035	14.1	19.7

※3 4月27日の測定値に基づく推定値

0.0035

20.1

※4 5月17日の測定値に基づく推定値

(参考)なお、従来20mSvを超えていた伊達市のポイント（原則毎日測定）は、今回も超えている。

地点番号	地点のおおよその住所	最新の線量率の測定値 (mSv/h)		来年3月11日までの積算線量 (mSv)	
		5月11日の測定値	5月25日の測定値	5月11日時点の推定値	5月25日時点の推定値
37	伊達市霊山町石田室司沢	0.0039	0.0032*5	21.7	20.0

※5 5月23日から5月25日までの測定値の平均値